

第 1 学年 道徳 学習 指導 案

日 時 平成 18 年 10 月 12 日 (木) 5 校時

学 級 1 年 A 組 (男 19 名 女 14 名 計 33 名)

指導者 教諭 坂 本 知 香

1 主題名 「生きることの大切さ」 内容項目 3 - (2) (生命の尊重)

2 資料名 「樹と少年」 (出典「東京書籍 明日をひらく 1」岩手県版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 3 - (2) は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。」ことをねらいとしている。

中学 1 年生の時期は、自分自身に大きな可能性を感じ、将来成功を収めた姿を理想としてもっている。しかし一方では、思い通りの行動ができなかったり結果が得られないと不安が募り、自己否定の思いに囚われることがある。生命の尊厳を十分に理解せず、思い悩む苦しさから逃れるために、短絡的に自分自身の生命を蔑ろにしてしまう場合もある。

かけがえのない生命を大切にするためにも、自分の存在を肯定的に捉え日常生活の中から生きる喜びを見いだしていく姿勢を育てることが必要だと考える。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

本学級の生徒は明朗快活で、中学生らしい素直さがみられ、概ね男女間の仲も良い。5 月に実施した道徳性検査 (NEW HUMAN) によると、学級全体として「生命の尊重」の項目では全国よりも望ましい傾向にあると診断された。しかし個別に見ると、道徳的判断力があるのに対し道徳的心情が十分に伴っていないと判定された生徒も多かった。命を大切にすることは身体的に自他を傷つけてはいけないことであると捉えてはいるものの、自己肯定感をもって生き生きと生活することの重要性が十分には理解されていないように思われる。誰もが不安や悩みを抱えるが、それを乗り越え、希望を持って生きていく大切さを考えさせたい。

(3) 資料について

本資料は、7 連からなる散文詩で、身体に障害を抱えた少年が生きる喜びを見いだしていく様が、樹との対話によって表現されている。1 連から 4 連では少年の視点で心情が語られている。身体を失った悲しみと他者への羨望を抱えていた少年は、やがて孤独感と絶望感を増し、死を選ぼうとする。しかし、5・6 連で視点は少年を見つめる樹へと移り、「動けなくとも孤独ではない」と生への喜びを少年に語りかける。7 連では再び少年の視点に戻り、生き生きと希望にあふれた姿が描かれている。

生への希望を失いかけた少年が、周囲との絆に気づき生きる喜びを見いだしたことを理解させながら、かけがえのない生命を大切に前向きに生きていく姿勢を養っていききたい。

4 指導にあたって

怪我や病気により身体の不自由が生じ、他を羨んだり孤立を感じたことは、多くの生徒が経験していると思われる。導入部では自分の生活経験を思い返しながらか、障害を持つ少年に共感させていきたい。資料前半は物語のように平易な表現であり、少年の心情を追いやすい。ここでは、つらい現実から逃げようとする挫折感を理解させたい。後半は樹と少年が対話する詩的表現が用いられている。少年の視点に立って生き生きとした樹の姿を想像させながら、少年が樹と自らを重ね、生きることは美しいと感じるように変容していることに気付かせたい。

また、保護者からのメッセージを聞き、「自分は周囲との関わりの中で生きていて、かけがえのない存在なのだ」ということを感じ取らせたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

かけがえのない生命を大切にし、生きるための喜びを見いだしていこうとする心情を養う。

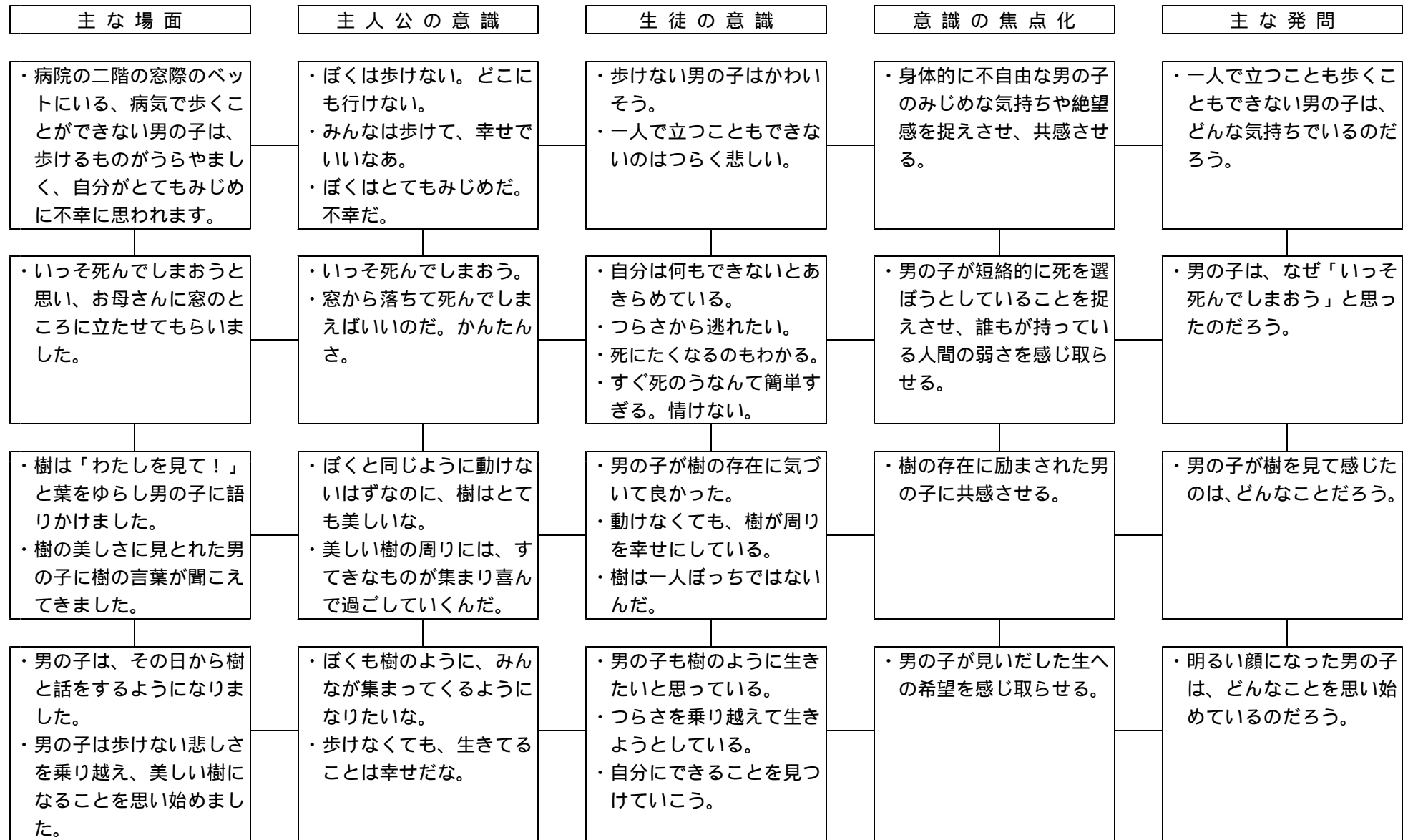
(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 5分	1 身体的な自由が奪われたらどう感じるか想像し、発表する。 もし、自分の手足の自由がきかなくなったら、どんな気持ちになるだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・思い通りに動けず苦しい ・できない事が多くなるから、つらい ・つまらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の可能性に限界を感じた時、誰もが不安や否定的な気持ちに陥ることを想像させる。
展開 40分	2 資料「樹と少年」を読んで話し合う。 一人で立つことも歩くこともできない男の子は、どんな気持ちでいるのだろう。 男の子は、なぜ「いっそ死んでしまおう」と思ったのだろう。 男の子が樹を見て感じたのは、どんなことだろう。 明るい顔になった男の子は、どんなことを思い始めているのだろう。 3 自分がどのような生き方をしたいのか考え、発表する。 あなたにとって、生きるために大切なこととは、何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で立つこともできないのはつらく悲しい ・自分がみじめだ ・歩けないのが悔しい ・自分は何もできないとあきらめている ・つらさや悲しみから逃れたい ・自分はいない方がいいんだ ・死んだ方がました ・動けなくても、樹が周りを幸せにしている姿は美しい ・歩けなくても樹は幸せなんだ ・樹は一人ぼっちではないんだ ・自分も樹のように明るく生きたい ・自分にできることを見つけていこう ・つらいことも乗り越えていこう ・どんなにつらくとも自分の命を粗末にしないこと ・希望を失わず一生懸命がんばること ・目標や夢を持つこと ・人と人との関わりを持つこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的に不自由な男の子のもつ深い悲しみや絶望感を捉えさせ、共感させる。 ・男の子が短絡的に死を選ぶとしていることを捉えさせ、誰もが持っている人間の弱さを感じ取らせる。 ・動けなくともけして孤独ではない樹の存在に励まされた男の子に共感させる。 ・男の子が見いだした生への希望を感じ取らせる。 ・自分と向き合う時間を十分に与え、自分を肯定的に捉え能動的に生きる姿勢を考えさせる。
終末 5分	4 『保護者からのメッセージ』を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いを感じ取らせ、余韻を大切にする。

6 評価

かけがえのない生命を大切にし、前向きに生きようとする気持ちが高められたか。

7 資料分析図（樹と少年）



樹と少年

一人で立つことも歩くこともできない

不幸

- ・一人で見つこともできないのはつらく悲しい
- ・自分のみじめだ
- ・歩けないのが悔しい

「いつそ死んでしまおう」

絶望

- ・自分は何もできないとあきらめている
- ・つらさや悲しみから逃れたい
- ・自分はいない方がいいんだ
- ・死んだ方がましだ

男の子が樹を見て感じたこと

- ・動けなくても、樹が周りを
- ・幸せにしている姿は美しい
- ・歩けなくても樹は幸せなんだ
- ・樹は一人ぼっちではないんだ

希望

明るい顔になった男の子が、思い始めていること

- ・自分も樹のように明るく生きたい
- ・自分にできることを見つけていこう
- ・つらいことも乗り越えていこう

樹のように生きよう

絵

絵

道徳 「樹と少年」 ワークシート

1年 組 番 氏名

あなたにとって、生きるために大切なこととは、何だろう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

